

## 世紀の大宰府のジオラマ

このジオラマは、コンパクトではあるが力強い都市であった大宰府が、8世紀にはどのように設計されていたかを表現している。大宰府は文字通りに訳すと「偉大な政府(朝廷)の本部」で、その都市は極めて重要な外国貿易の中心地であり、軍事の拠点、重要な政府の行政をつかさどる中心であった。しかし、大宰府は政治のみに集中していたわけではなく、日本の文化と宗教においても重要な役割を担っていた。

ジオラマの一番右側には、巨大な複合施設で九州の主要な仏教寺院であった頃の観世音寺が見られる。かつては5階建ての立派な仏塔が敷地内に立っていたが、自然災害で他の多くの建物と共に破壊されてしまい、今日ではわずかな再建築した躯体しか残っていない。

お寺の横にある学校では北九州中から集まった男子を教育し、これらの若い学者たちはその後、九州地区で政府の役人になっていった。今日に至るまで、大宰府は優秀な学者を輩出する中心的拠点とされている。毎年、何百万人もの高校生が、そこに祀られ学問の神様と崇められている天神様、すなわち神格化した伝説的な学者であり政治家でもあった菅原道真にお参りするために、わざわざ大宰府天満宮まで巡礼する。学生たちは天神様のご利益を受け、試験に合格するように祈る。

官庁群は四王寺山の麓に位置し、山々の自然防衛と、防衛壁と堀からなる水城から恩恵を受けている。この行政センターは、壮大な朱色の建造物群で、現代の奈良にあった宮廷と宮殿である平城京に基づく宮殿のような施設であった。このジオラマは、8世紀の大宰府の規模がどのくらいのものであったかイメージを伝えてくれるが、現在も行われている発掘作業により、この古都の本当の規模と豊かな歴史がさらに明らかになってきている。